

令和元年度

自己点検・評価報告書

令和2年3月実施
学校法人 神村学園

神村学園専修学校

目次

1	学校の教育目標	P1
2	本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	P1
3	評価項目の達成及び取組状況	
(1)	教育理念、目標	P2
(2)	学校運営	P3
(3)	教育活動	P4
(4)	学修成果	P5
(5)	学生支援	P6
(6)	教育環境	P7
(7)	学生の受け入れ募集	P7
(8)	財務	P8
(9)	法令の遵守	P8
(10)	社会貢献・地域貢献	P9
(11)	国際交流	P9
4	学校評価の具体的な目標や計画	P10

令和元年度 自己点検評価表

神村学園専修学校

1 学校の教育目標

実学による人間性豊かな人柄

神村学園では学力向上と人柄教育を両立させることを教育理念としている。専修学校では「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」をより深く学び、実習においては技術・技能を磨いていなければならない。しかしながら免許や技能はあくまでも仕事上の条件であり、人間としてのモラル、基本的なマナーを根底に置き、専門職としての職務を果たせるようになることが目標である。看護師・理学療法士・作業療法士・介護福祉士・保育士の免許が最大の目標ではなく、その資格・免許を通して社会に貢献できる人材育成を教育の目標

(日本語学科) 日本語教育並びに建学の精神である人柄教育を通し、国際社会に貢献できる資質を備えた感性豊かな人材を育成する。

責任

自分の行動や感情に対して責任を持ち、すべてに対して誠実に対応できる人材の育成に努める。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

「アドミッション・ポリシー(入口)」、「カリキュラム・ポリシー(中身)」、「ディプロマ・ポリシー(出口)」についての基本的方針を策定・実践する

①国家試験全員合格 ②授業の中身の充実 ③オープンキャンパスの充実(募集活動の充実) ④環境美化に努める ⑤就職支援活動 ⑥専任教員養成講習会において看護学教育を深く学ぶ。 ⑦社会性、コミュニケーション、創造力の向上 ⑧留学生の大学進学率を上げる ⑨専門学校・大学合格、日本での就職等、学生個々の目標達成のためのカリキュラムの実施

3 評価項目の達成及び取組状況

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(1) 教育理念、目標		評価
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3
2	学校における職業教育の特色は理解しているか	3
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色将来構想などが学生保護者等に周知されているか	3
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

①課題

- ・少子高齢化社会、多死社会の時代に求められる人材育成に向けて、専門職としての知識・技術はもちろんのこと、倫理観、社会性の備わった人材の育成。
- ・学校生活全般で目標を達成できるような取り組みを各教員が行うこと
- ・教育環境の整備
- ・国家試験合格率が思うように伸び悩んでいる
- ・いかに学生に意欲を持たせられるか。
- ・学校理念等、学生保護者の周知の不足
- ・社会情勢に大きく左右されるが、その情勢でも安定した学生募集
- ・学校理念等、学生保護者の周知の不足。
- ・学校生活全般で目標を達成できるような取り組みを各教員が行うこと
- ・昨年までの留学生30万人計画により、今年も進学競争は厳しいものであった。特にドンズー日本語学校出身者の国公立大学不合格者は昨年よりも多く、不本意な結果となってしまった。

②今後の改善方策

- ・教育備品の整備
- ・国家試験全員合格に対して、3年生の国試対策はゼミ担当による学習指導(年間計画を通して行う)
- ・1・2年生の学力向上に向けて①小集団グループを編成して、ゼミ形式で教員が指導する。(継続)年間を通じた具体的計画の立案。
- ・保護者会、地区保護者会などでの学校理念等の紹介。
- ・教育内容の検討、学習能力の向上を図る努力をする。
- ・自立性を強化できるようにする。
- ・ドンズー日本語学校からの受入れが10年目にして途切れる。入管対策として特待生内容の見直し、大学合格のためのカリキュラムの改善を図る。

③特記事項

- ・学生・保護者のニーズをしっかり把握する
- ・医療専門職としての知識、態度を再確認する。
- ・労働人口減少に対する国の安易な政策、留学生受入れから外国人労働者の受入れへの方向転換には不安要素が多い。本校はこれまで通り地道に真面目に丁寧に、留学生を受入れていくべきだと思う。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(2)学校運営		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①課題

- ・個人情報保護法の厳守。
- ・教育活動等の情報公開
- ・運営を行う上で、人員と役割責任の分配、効率が悪い

②今後の改善方策

- ・個人情報保護法共通理解をはかる。
- ・学生へ適切なタイミングでの情報開示

③特記事項

--

(3)教育活動		評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3
13	関連分野における先進的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

①課題

・研修時間の確保
 ・職員の達成目標を明確にし予算案を明らかにする。
 ・教育講習は受けさせて頂けて良かった。
 ・授業評価の実施・評価体制。 教員数の不足感。
 ・人員不足および雑務等により本来行うべき学生への教育ができていない状況にある。また研修に行く時間等の確保もできない状況にあった。

②今後の改善方策

・業務内容の見直し、効率化を図る。
 ・教員全員が研修に参加するための時間的、精神的余裕を持てるように業務内容の見直しが必要である。
 ・計画的に業務を進め、時間にゆとりがもてるよう努める。
 ・人員確保,時間確保
 ・授業評価のシステム化、教員数の充足、能力開発研修の実施。
 ・次年度より授業の中で、現場との関わりをもつ機会を持つようにする予定。

③特記事項

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(4)学修成果		評価
1	就職率の向上が図られているか	3
2	資格取得率の向上が図られているか	3
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①課題

- ・国家試験対策を1年時から始められるように工夫している。
- ・卒業後の実態把握
- ・資格取得について努力しているものの、100%ではない(合格率)。
- ・希望校への合格。日本語能力試験上級(N1、N2)レベルの合格。
- ・休学率、退学率を改善するための学内の取り組み

②今後の改善方策

- ・勉強したことのない学生にどう底上げしていくか常に工夫が必要である。
- ・同窓会を活用しての把握。
- ・学生個人に沿った指導方法の模索が重要。
- ・進学指導体制が年々整ってきたものの、結果は満足できるものではなかった。今年度の反省を踏まえ、合格率アップを図る。
- ・個別への取り組み

③特記事項

- ・行事過多による職員・学生の負担に配慮する。

(5) 学生支援		評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3
7	保護者と適切に連携しているか	3
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

①課題

- ・卒業後も連絡ツールは作れるようにしている。
- ・高校との連携不足。
- ・奨学金の充実。
- ・留学生が学生奨学金をもらえるような体制を作ってもらいたい
- ・在校生・卒業生との連携をもっと十分なものにしたい。

②今後の改善方策

- ・卒業後もクラスを中心とするメンバーと連絡が取り合えるようにできている。
- ・高校との連絡協議会などの実施。
- ・奨学金受けられる体制を作っただき学生のモチベーションアップを図る。
- ・臨床指導者からの定期的な実習以外の指導や体験談などの機会をつくることも検討していきたい

③特記事項

特に無し

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(6) 教育環境		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を設備しているか	3
3	防災に対する体制は整備されているか	3

①課題

- ・レポートを書く機会が多いが、幼児教育に関する本が少なく、学内で調べるのは難しい。
- ・施設設備の整理整頓。
- ・設備管理の維持、点検。
- ・設備が老朽化している。特に作業療法に必要な各種の道具類が使い物にならない。
- ・施設、設備の不備、老朽化
- ・寮の環境整備
- ・黒板をホワイトボードに変えていただきたい。学園内でWi-Fiが使えるような環境作り
- ・教室・設備等のバリアフリー化が進んでない

②今後の改善方策

- ・施設改修、備品購入。
- ・点検と調整
- ・管理・整備の徹底
- ・授業での活用ができると整備点検へと繋がる
- ・定期的な点検、施設の不具合に適切に対応する
- ・備品の丁寧な使用はもちろん、速やかな補修の実施。
- ・教室・設備等のバリアフリー化を進める

③特記事項

- ・いつ地震や火災が起ころうと、安全に対応出来るように、避難経路だけは確保、確認しておく。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(7) 学生の受け入れ募集		評価
1	学生募集活動は、適正に行われているか	3
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
3	学納金は妥当なものとなっているか	3

①課題

- ・募集活動と教育活動の両立
- ・募集活動については、積極的に行われている
- ・他の業務がある中、複数の教員で募集を行っているのが現状である。
- ・国の方針が留学生受入れから外国人労働者受入れに大きく方向転換され、留学生に対する入管審査の厳格化が明確にされた。学生確保にはこれまで以上の努力が必要である。

②今後の改善方策

- ・全体的な業務の見直しと人員配置の見直し
- ・オープンキャンパスへつながる活動の提案と実施
- ・日本語学科開設9年目を迎えるにあたり、そろそろ募集専門の担当者を配置して本格的な募集活動を行ってはどうか。入管申請について・・・確実に許可をもらうための方法として行政書士に依頼するのも一つの手だと思う。

③特記事項

- ・特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(8) 財務		評価
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
3	財務について会計監査が適正に行われているか	3
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

①課題

・財務状態は職員でもわかっていないため、情報公開は不十分であると考える。

②今後の改善方策

・情報公開が必要
 ・情報公開に向けた環境整備
 ・必要限度での情報を知り、創意工夫した職員各々の取り組みが必要

③特記事項

・特になし

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(9) 法令等の遵守		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
2	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	3
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	3

①課題

・公開されていることが周知されていない。
 ・自己評価は実施されているが、短いスパンでの振り返りも必要

②今後の改善方策

・不明な点に関しては確認する。

③特記事項

・自己評価の公開をインターネットで行い、より透明性のある学校運営に努める。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(10) 社会貢献・地域貢献		評価
1	学校教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

①課題

- ・ころぼん体操等、積極的に協力出来ているのではないかと思います。
- ・地域に対する活動やボランティアなどは積極的に実施できている
- ・『ころぼん体操』の実施
- ・地域の伝統行事、ボランティアに参加等この点では他校に負けない強みがある。

②今後の改善方策

- ・現在、行っているころぼん体操の継続。

③特記事項

- ・自主性を養うためにも地域でのボランティア活動が重要である
- ・地元のボランティアには積極的に参加し、交流を図っている。

適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不満・・・2, 不適切・・・1

(11) 国際交流		評価
1	留学生の受入・派遣について戦略を持って行っているか	3
2	留学生の受入・派遣、在籍管理等において適正な手続き等が取られているか	3
3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3
4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

①課題

- ・現在2名の留学生が在籍しているが、1人目の結果を示す時期となるため、継続して取り組んでいきたい
- ・今後、留学生の学生が入学してきた際の対応が経験がなく検討が必要。
- ・外国からの留学生の受け入れを行っているが、数が少ないし、日本語の能力が不足している。

②今後の改善方策

- ・他の科で留学生がすでにいる科があるため、状況確認など情報をもらい対応を考える。
- ・医学的知識・技術はもちろんのこと、医療人としての適性も向上させていきたい
- ・もっと行政と協力しシェアハウスを利用し、交流を図る。学生だけでなく、在住の外国人にも地元の人々との交流の場を作る

③特記事項

--

4 学校評価の具体的な目標や計画

- ・学校運営は総合的にほぼ適切であると思われる。さらに自己評価を活用しながら、より良い学校改運営を積極的に行う。
- ・情報公開や学校評価も実施できた。さらに客観性を持ちながら、透明性のある学校運営に努めたい。
- ・積極的な募集活動をもとに、各学科定員を満たし、基礎教科・専門教科の充実を図る。日々努力して国家試験全員合格という目標達成できるよう職員で学生の支援体制を作る。
- ・国家試験合格100%を目指し、職員一同努力してきた。結果が伴うことを期待する。
- ・職員全員が周知し、同じ考えで動いていけるチームワークの向上が必要。